

かなしくも御辭職などいふ文字を新聞に見る日曜の朝  
わきかたう涙こそ湧けわかまへにひろけしまゝの新聞の文字  
いまさらに御聲きけは新らしくかなしみ湧くもわりなかりける  
教へ子の心の上に神のこと陽のことくにもすみましゝ君  
たよるべきかげうしなひて何となく心寂しき昨日今日かな  
年頃の君がみさとし今更に涙するまで浮び来るかな  
ふとではなごゝ思ひて今日もまた校長室の前にゆきけり  
なみるたる人の心は五月雨の空に似るかと思はるゝ今日  
をとゝしの入學式にのたまひし君の御聲の尊かりけり  
うなむらも走りより來て君の手に取りすがるなり學びやの庭  
思ひ出は葉山の濱の汀にて物のたまひし先生の御姿

大正六年七月六日印刷  
大正六年七月九日發行

(非賣品)

發行所 東京市女子高等師範學校内  
文科學術談話會

編輯兼發行者 東京市赤坂區新坂町六十八番地八號  
千葉安良

印刷者 東京市神田區旅籠町二丁目十二番地  
畑桂之助

印刷所 前同所  
廣業館

(電話下谷五五七番)